

# 平成29年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等

---

平成30年4月

総務省総合通信基盤局消費者行政第一課

# 1 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標 －ILAS(Internet Literacy Assessment indicator for Students)－

- スマートフォンが急速に普及し、インターネットがますます青少年にとって身近になる中、青少年がインターネットを安全に安心して活用するためには、インターネット・リテラシーの向上が急務。
- 総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会(青少年インターネットWG)の提言(平成23年10月)を受け、リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを開発。
- 協力を得られた学校等において、平成29年7月から12月にかけて実際にテストを行い、その結果を「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標(ILAS:アイラス)」として集計・分析・比較した。
- ILASは、地域での周知啓発活動や、事業者による安心安全サービスの提供・改善に役立てるとともに、OECD等における国際的な指標づくりに対して我が国からインプットしていく。

## ■「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」(平成21年4月1日施行)

### 【基本理念】

①青少年の適切なインターネット活用能力の習得(インターネット利用に係るリテラシー向上)、②青少年の有害情報の閲覧機会の最小化(フィルタリングの機能向上・普及、関係事業者による取組み)、③民間による自主的・主体的取組、国等による尊重・支援

## ■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会(青少年インターネットWG)提言(平成23年10月)

2. 各関係者に求められる役割等 (中略)

行政には、(特にインターネット上の危険への対処に係る)インターネットリテラシーに関する指標を、国際的に比較可能な形で整備し、定期的に公表していくことが求められている。

## ■青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有職者検討会(座長:赤堀侃司白鷗大学教授)(平成23年9月～24年3月)

教育工学や法学等に知見を有する有識者の方々からのご知見を踏まえ、特にインターネット上のリスク分類と、これに対応した危険・脅威への対応能力の整理、この能力を明らかにするテストの開発・分析・整理を実施。

(顧問)堀部政男(一橋大学名誉教授)、渡部洋(東京大学名誉教授)(座長)赤堀侃司(白鷗大学教育学部長・教授)、(座長代理)新井健一(ベネッセ教育研究開発センター長)

## ■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会(スマートフォン時代における安心・安全な利用環境の在り方に関するWG)提言案(平成25年7月)

第三部第3章スマートフォン時代に適したリテラシー向上の取組(1) (中略)

(1)インターネット・リテラシー指標(ILAS)の更なる展開、(2)地域における自立的な周知啓発活動の展開、(3)リテラシー向上に関する国際的な調和の推進

# 2 ILASの実施概要等

## ○ テスト及びアンケート調査の実施概要

平成29年7月から12月にかけて、全国95の公立・私立の高等学校等において、約17,000名の1年生相当を対象にIDを割り付けた上で無記名形式でテストを実施。併せて、利用している機器やトラブル経験の有無等についてアンケートを行い、クロス集計を実施。

地域区分	所在地区分	設立区分	協力人数	平均点
計10地域	特別区等 11校	国立高専 3校	男性 8,811人	男性 32.6点
	中核市等 21校	公立 84校	女性 8,384人	女性 34.8点
	その他 63校	私立 8校	性別無回答 28人	
	計95校		合計 17,223人	全体 33.7点(49点満点) (100%換算で約69%)

## ○ 青少年に必要なリスク対応能力の分類

OECDのインターネット上の青少年保護に関するレポートにおけるリスク分類をベースに、インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力(リスク対応能力)に関し、前記有識者検討会において以下の項目に整理)

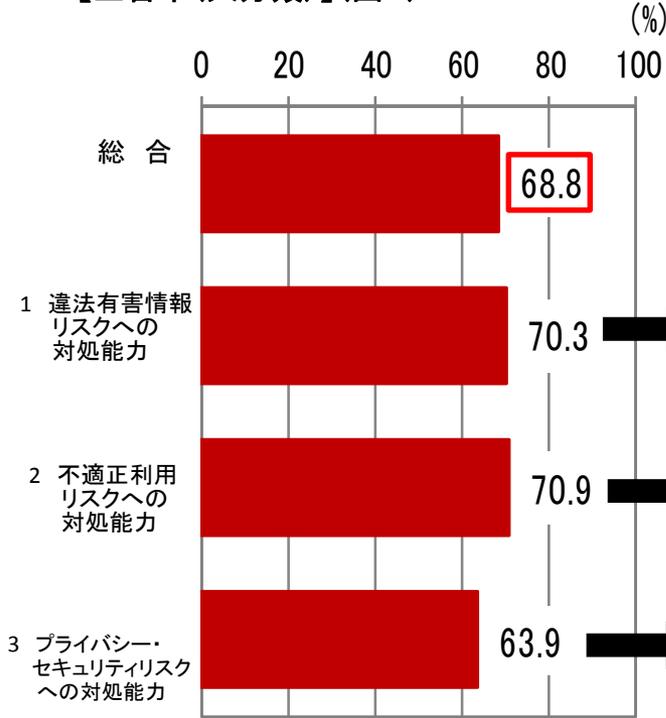
### 【青少年に必要なリスク対処能力】

- 1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力【違法有害情報リスクへの対処能力】
  - a. 違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
  - b. 有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
- 2. インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力【不適正利用リスクへの対処能力】
  - a. 情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。
  - b. 電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
  - c. 利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
- 3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力【プライバシー・セキュリティリスクへの対処能力】
  - a. プライバシー保護を図り利用できる。
  - b. 適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。

# 3-1 平成29年度ILASの結果

- 全体の正答率は68.8%。(図1)
- 不適切利用リスクへの対処能力(2c)の正答率が相対的に高く(79.4%)、利用料金や時間の浪費に配慮した利用はできるものの、不適正取引リスクへの対処能力(2b)の正答率(56.4%)やプライバシーリスクへの対処能力(3a)の正答率(62.3%)が相対的に低く、電子商取引やプライバシー保護への対処等が弱点。(図2)

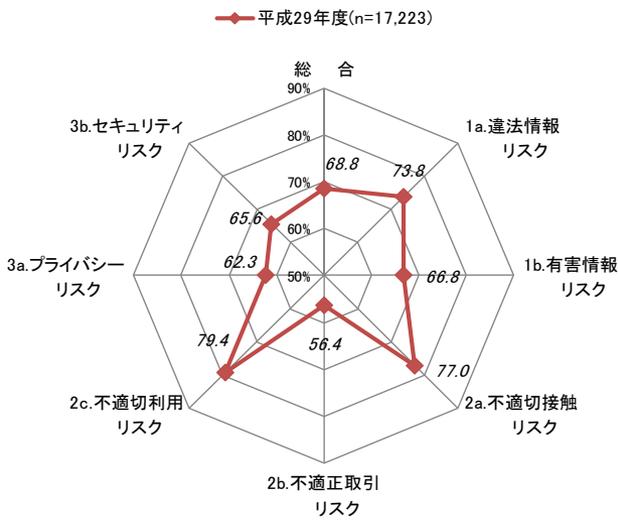
【正答率(大分類)】(図1)



【正答率(中分類)】(図2)

1 違法有害情報リスクへの対処能力	
1a.違法情報リスクへの対処能力	73.8%
1b.有害情報リスクへの対処能力	66.8%
2 不適正利用への対処能力	
2a.不適切接触リスクへの対処能力	77.0%
2b.不適正取引リスクへの対処能力	56.4%
2c.不適切利用リスクへの対処能力	79.4%
3 プライバシー・セキュリティリスクへの対処能力	
3a.プライバシーリスクへの対処能力	62.3%
3b.セキュリティリスクへの対処能力	65.6%

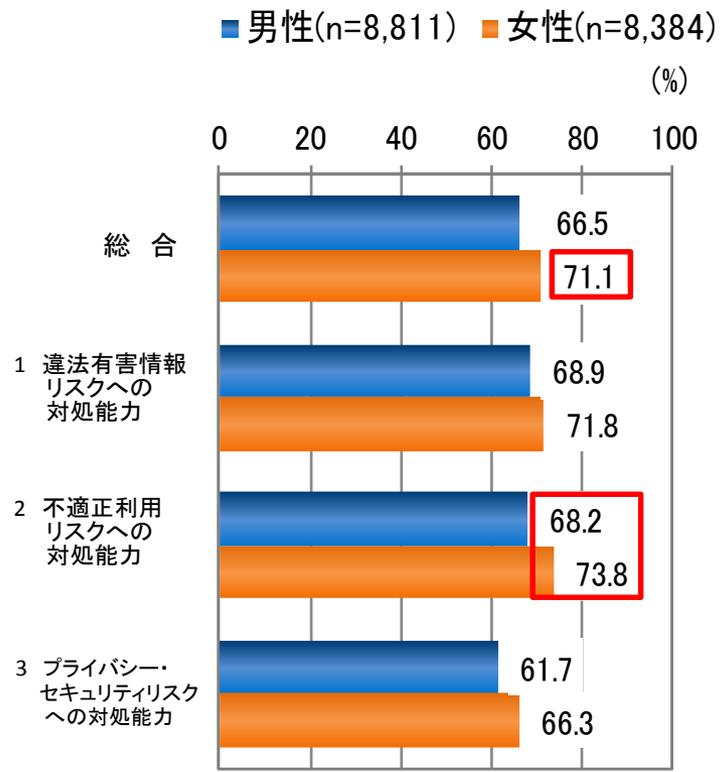
全体平均点  
33.7点 / 49点  
(68.8% / 100%)



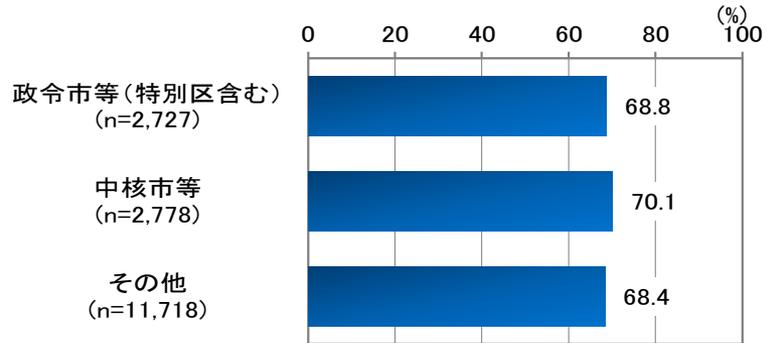
# 3-1 平成29年度ILASの結果

- 男子より、女子の正答率が高く、特に、2. 不適正利用リスクへの対処能力で最も差が大きい。 (図1)
- 学校の所在地区別では正答率に大きな差は見られない。 (図2)

【男女別正答率】(図1)



【学校所在地区別正答率】(図2)

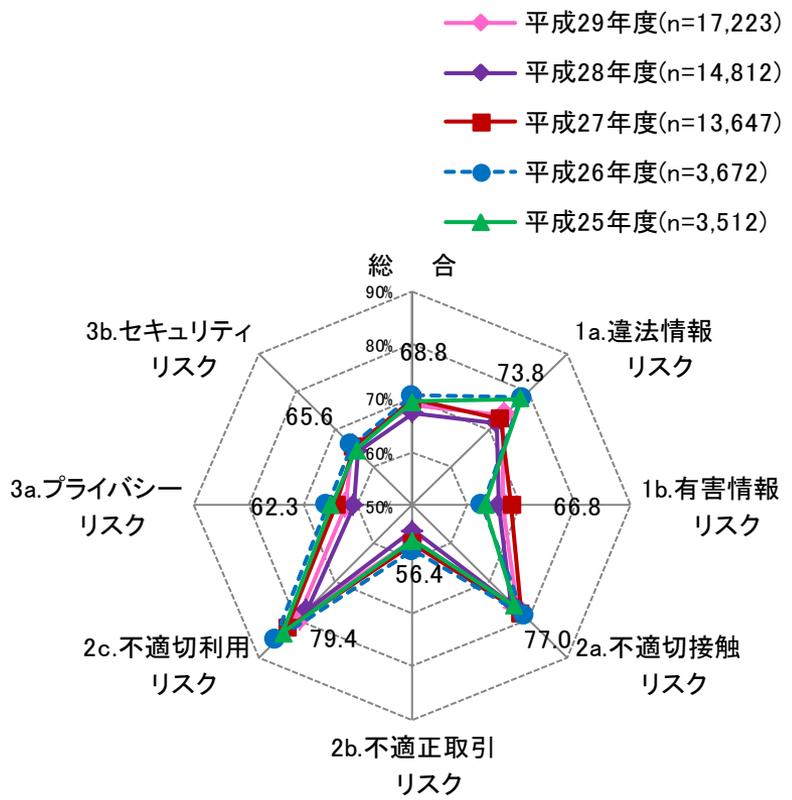


# 3-2 平成29年度ILASの結果(参考)

## 過去のテストとの比較

- 総合の正答率は、平成28年度をやや上回った。
- 過去5年間、不適正取引リスクへの対処能力(2b)の正答率が最も低い傾向にある。

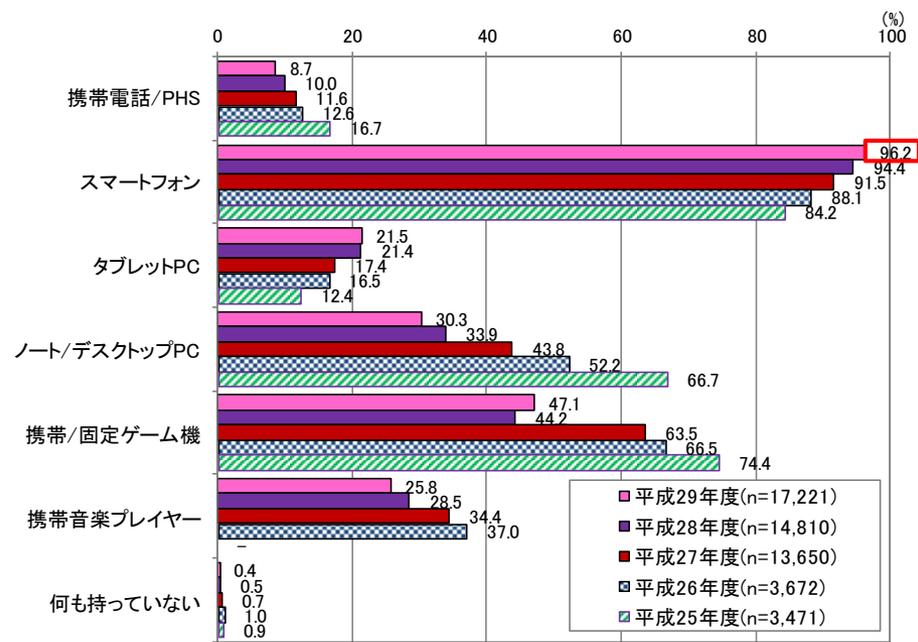
	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
回答者人数	17,223人	14,812人	13,647人	3,672人	3,512人
総合	68.8%	67.2%	69.7%	70.5%	69.4%
1a.違法情報リスクへの対処能力	73.8%	71.8%	72.9%	78.4%	78.1%
1b.有害情報リスクへの対処能力	66.8%	65.9%	68.2%	62.8%	63.3%
2a.不適切接触リスクへの対処能力	77.0%	75.8%	78.3%	78.9%	76.5%
2b.不適正取引リスクへの対処能力	56.4%	54.6%	57.1%	58.4%	56.5%
2c.不適切利用リスクへの対処能力	79.4%	77.5%	82.4%	85.5%	83.5%
3a.プライバシーリスクへの対処能力	62.3%	60.8%	63.9%	65.6%	64.8%
3b.セキュリティリスクへの対処能力	65.6%	64.3%	65.3%	65.8%	64.5%



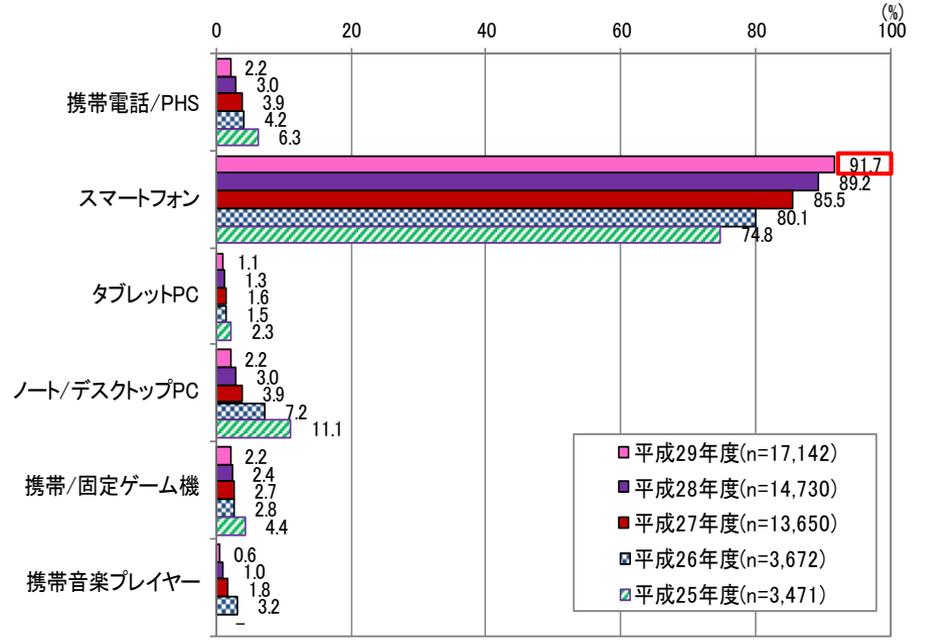
# 4 青少年の利用機器の現状

- 青少年の96.2%がインターネット接続機器としてスマートフォンを保有している。(図1)
- 青少年の91.7%がインターネットに接続する際、最もよく利用する機器としてスマートフォンをあげている。(図2)

【保有するインターネット接続機器(複数回答)】(図1)



【インターネットに接続する際、最もよく利用する機器(択一回答)】(図2)



# 5 青少年のインターネット利用状況

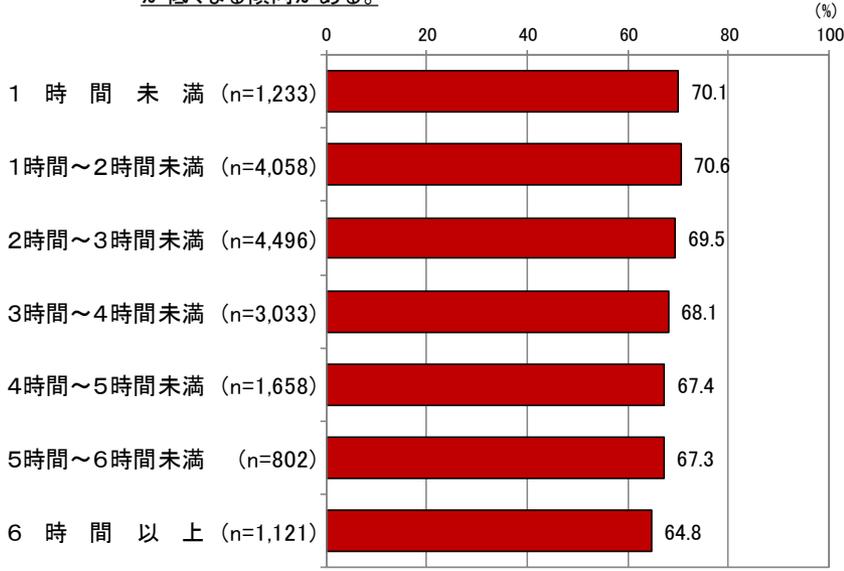
1日当たりの平均利用時間はスマートフォンは2～3時間の利用が最も多く、他の機器に比べ利用時間が長い。

【機器別1日(平日)の平均利用時間】(保有機器別)

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン (n=16,401)	7.5	24.7	27.4	18.5	10.1	4.9	6.8
携帯電話/PHS (n=1,449)	34.4	16.7	18.5	13.4	7.4	3.1	6.5
タブレットPC (n=3,609)	66.6	15.9	8.0	4.7	2.4	0.9	1.5
ノート/デスクトップPC (n=5,613)	69.8	13.5	7.7	3.5	2.4	1.2	1.8
携帯/固定ゲーム機 (n=11,730)	69.4	15.2	7.9	3.7	1.7	0.8	1.3
携帯音楽プレイヤー (n=4,311)	62.4	20.9	8.9	3.7	1.7	0.8	1.6

(参考)スマートフォン保有者の利用時間別正答率

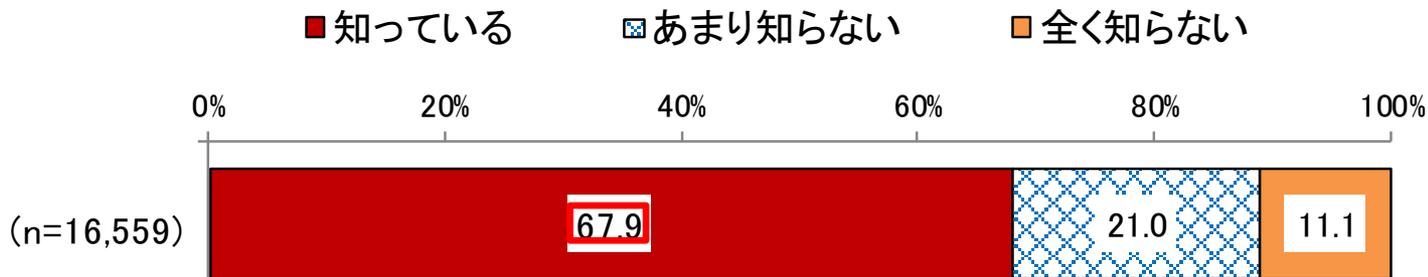
平均利用時間が2時間未満の利用者の正答率が高く、2時間以上の利用者は、平均利用時間が長くなるにつれて、正答率が低くなる傾向がある。



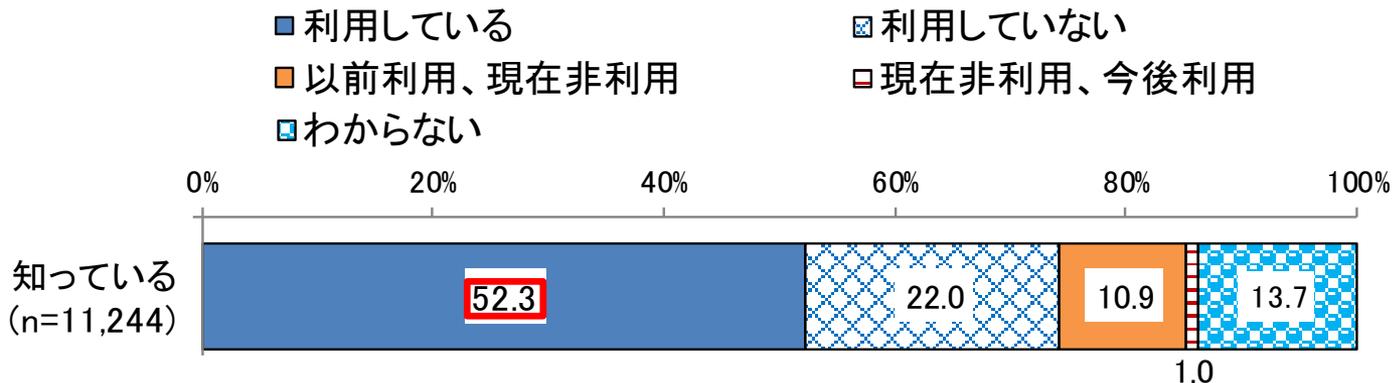
# 6 フィルタリングに対する認知と利用状況

- 青少年の67.9%がフィルタリングを認知している。(図1)
- フィルタリングを認知している青少年の52.3%がフィルタリングを利用している。(図2)

【フィルタリングの認知状況】(スマートフォン利用者)(図1)



【フィルタリングを認知している青少年のフィルタリング利用状況】(スマートフォン利用者)(図2)



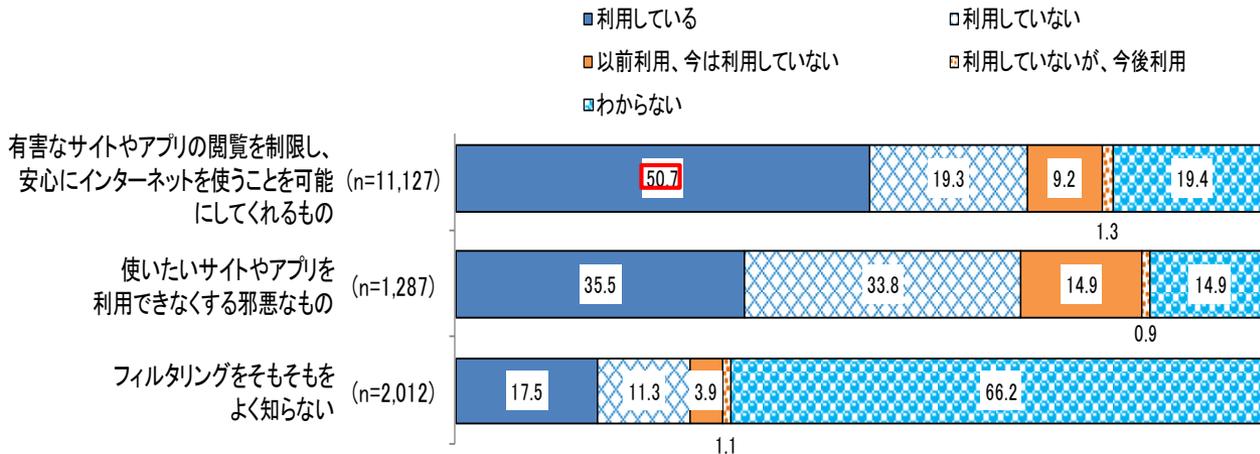
# 7 フィルタリングに対するイメージとフィルタリングの利用状況

- 青少年の72%がフィルタリングを肯定的に捉えている。(図1)
- フィルタリングを肯定的に捉えている青少年のうち、50.7%の青少年がフィルタリングを利用している。(図2)

【フィルタリングに対するイメージ】(スマートフォン利用者)(図1)



【フィルタリングに対するイメージとフィルタリング利用率】(スマートフォン利用者)(図2) ※フィルタリングを「全く知らない」と回答した者を除く。

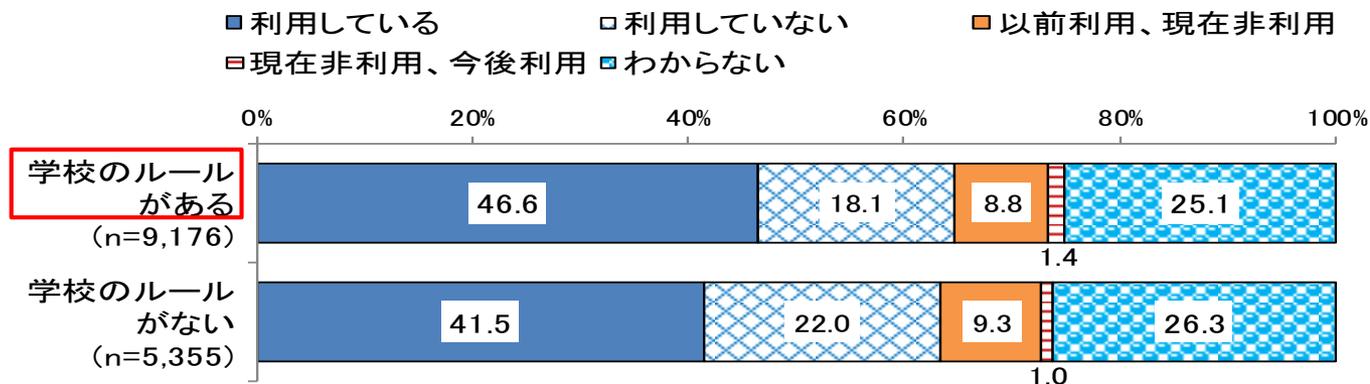


## 8 学校・家庭でのルールとフィルタリングの利用状況

インターネットの利用について学校でのルール、家庭でのルールがある青少年の方が、ルールがない青少年に比べフィルタリング利用率が高い。

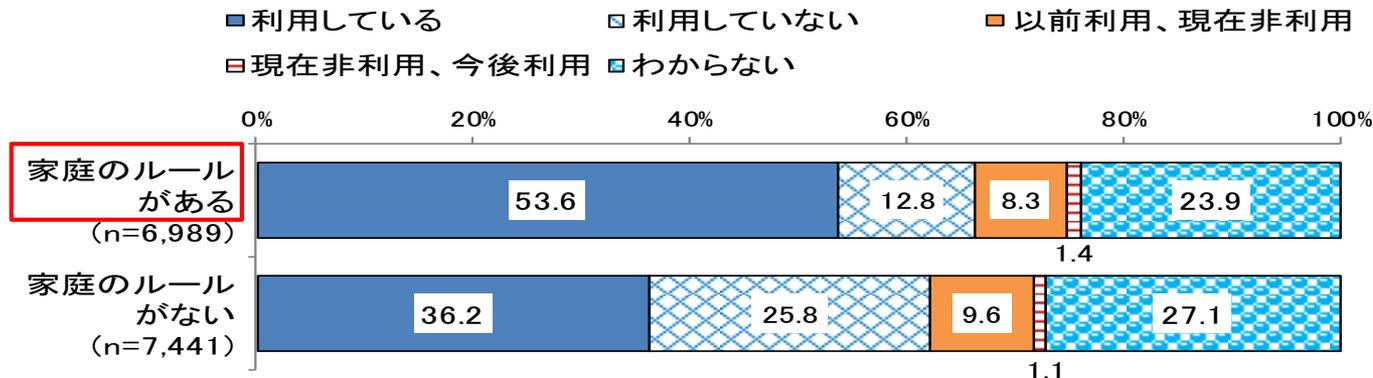
【学校のインターネット利用ルール有無とフィルタリングの利用状況】(スマートフォン利用者)

※フィルタリングを「全く知らない」と回答した者を除く。



【家庭のスマートフォン等利用ルール有無とフィルタリングの利用状況】(スマートフォン利用者)

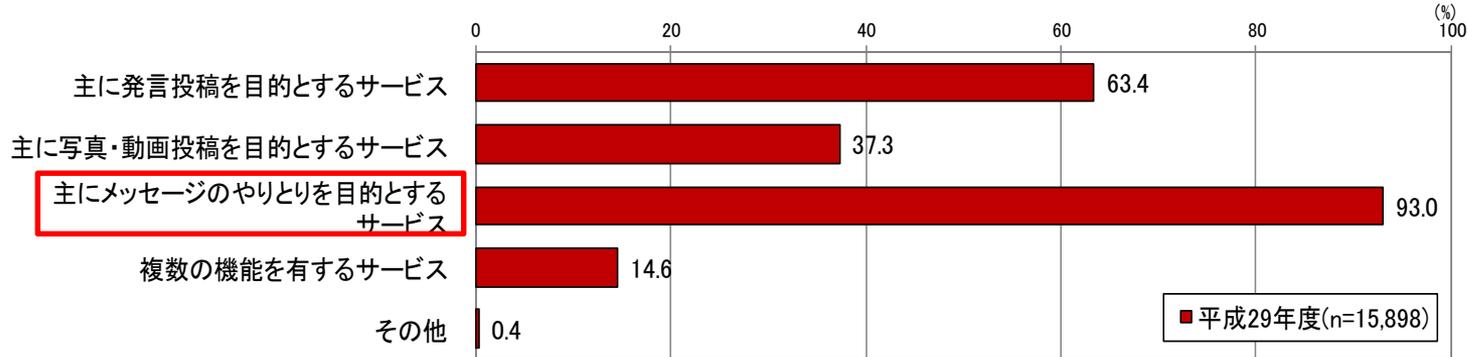
※フィルタリングを「全く知らない」と回答した者を除く。



# 9 青少年のSNS利用状況

- 青少年が利用しているSNSは、主にメッセージサービスを目的とするサービスが最も多い。(図1)
- フィルタリングを認知し、かつSNSを利用している青少年の約4割がフィルタリングを利用している。(図2)

【利用しているSNS】(スマートフォン利用者。複数回答)(図1)



【利用しているSNSとフィルタリング利用状況】(フィルタリングを知っているスマートフォン利用者)(図2)

※フィルタリングを「全く知らない」と回答した者を除く。

